

多重 WH 疑問文における疑問要素の前置優先性に関する一考察*

小 堂 俊 孝

A Study on Precedence of Wh-Frontings in Multiple Wh-Questions

Toshitaka Kodoh

(平成3年10月31日受理)

In general, a wh-fronting takes place when a wh-question is generated. However, which wh-word/phrase should be moved to the front in making a multiple wh-question? Kuno & Robinson (1972) shows that a wh-word can not be moved crossing over another wh-word (Wh Crossing Constraint). Therefore, a wh-subject tends to be fronted first if it exists. The fronting order of other wh-words shown by the research is below : wh adverbials of time and place > wh direct object > wh indirect object. (> means precedence.)

However, the principle above is not enough to cover all the phenomena on wh-frontings, firstly because we have two kinds of adverbials: obligatory and optional, which are not treated in the paper. Also, 'why' and 'how' are not included in the principle above.

The writer has attempted to revise the above rule in this research. The result is below : wh subject > how > why > optional wh adverbial > obligatory wh adverbial > wh object.

1. はじめに

通常、WH 疑問文では疑問詞の前置が行なわれる。しかしながら、多重 WH 疑問文の場合にはどの疑問要素が前置されるのであろうか。一般に複数の疑問要素を前置できるとは考えられず、前置に関して疑問要素のなかに優先性が存在すると思われる。本稿では従来考えられている前置優先性の原則にさらに制限を与え、新たな一般化を試みたい。

尚、本稿では Echo Question や Quiz Question として生じる多重 WH 疑問文は考慮の対象からはずし、また間接疑問文として生じる多重 WH 疑問文の考察については機会を改めることにする。

2. 先行研究について

筆者の知る限りでは Kuno & Robinson (1972) と Chiba (1977) が多重 WH 疑問文の疑問詞前置に関して考察をしているが、Chiba (*ibid.*) での考察は間接疑問文の考察に関しては興味深いものがあるが、直接疑問文については Kuno & Robinson (*ibid.*) と同内容の結果である。よって、ここでは Kuno & Robinson (*ibid.*) をもとに考察していく。

Kuno & Robinson (*ibid.*) によれば多重 WH 疑問文の疑問詞前置に関して次のような傾向があると記している。

(2 - 1) ある疑問詞が別の疑問詞を飛び越して移動することは禁じられる (Wh Crossing Constraint)。但し、場所・時を表わす疑問副詞 (when/where) は直接目的語や間接目的語を含む前置詞句を飛び越すことが許される。

(2 - 1) を具体的に下記の例文で見よう。

(2 - 2) a. Who did what?
b. Who gave the book to whom?
c. Who went where?
(2 - 3) a. *What who did?
b. *To whom who gave the book?
c. *Where who went?

(Kuno & Robinson (*ibid.* : 474))

(2 - 2) ではある疑問詞が他の疑問詞を飛び越し

て前置されてはいない。一方、(2 - 3) では前置されたそれぞれの疑問詞 what, to whom, where が who を飛び越しており、Wh Crossing Constraint に反し非文である。

さらに次の文を見てみよう。

(2 - 4) a. What did you buy where ?

b. What did you buy when ?

(2 - 5) a. Where did you buy what ?

b. When did you buy what ?

(Kuno & Robinson (*ibid.* : 474))

(2 - 4) の前置要素 what は他の疑問要素を飛び越してはいないので容認できる。(2 - 5) では疑問副詞が他の疑問詞を越えて前置されているが、(2 - 1) のとおり文法性には影響がない。以上の結果から次のような疑問詞移動の対象序列となる。

(2 - 6) 主語>時・場所の副詞>直接目的語>間接目的語を含む PP

(Imai, *et al.* (1978 : 181))

不等号は右側の要素が左側の要素を飛び越して移動できないことを示している。(2 - 2)-(2 - 5) の例文は(2 - 6) に反していない。

しかしながら、次の文を考えてみよう。

(2 - 7) With whose help who will do what ?

(Chiba (*ibid.* : 297))

この文では with whose help が目的語 what だけでなく、前置優先性の最も高い主語 who を飛び越している。しかし、この文は(2 - 6) の前置優先順序に反しているにもかかわらず、文法的である。次の例でも同じことが言える。

(2 - 8) a.*Who was absent when why ?

b. ? Why who was absent when ?

(2 - 9) a.*To whom did Kathy supply food why ?

b. Why did Kathy supply food to whom ?

(2 - 8b), (2 - 9b) では why がそれぞれ who, to whom を飛び越して前置されている。これらの文は飛び越しの生じていない文(2 - 8a), (2 - 9a) よりも文法性が高く、Wh Crossing Constraint に反している。また(2 - 6) の優先性順序では why の前置優先性が述べられていないためこれら

の文法性を説明できない。

why とともに how についても同じことが言える。(2 - 10b) の how は who を飛び越えているが、飛び越えが生じていない(2 - 10a) よりも文法性が高いのである。よって、(2 - 6) では(2 - 10)の結果を説明することはできない。

(2 - 10) a.*Who was regarding Nancy how when ?

b. ? How who was regarding Nancy when ?

以上の点から(2 - 1) 及び(2 - 6) は不完全なものであると言わざるを得ない。

次のセクションでは今までの考察を踏まえようとて独自の前置規則をとらえようと試みる。

3. 前置制約について

分析の第一歩として主語疑問詞の前置優位に着目してみよう。従来の規則(2 - 6)によると主語が疑問要素である場合には他の疑問詞の前置を阻止するような働きをもつようである。一方、主語が疑問要素でない場合には他の疑問詞前置が比較的容易になされる。前置要素の優先性を分析するため、まず3.1では、主語が非疑問要素の構造を取り上げ主語以外の疑問要素の前置優先性を調べ、次に3.2では疑問詞主語が最も優先されるのかどうかということをも再点検してみよう。

3.1 主語が非疑問要素の場合

3.1.1では目的語と副詞が疑問詞の場合、3.1.2では2つの副詞が疑問要素の場合を調べ、さらに why や how の前置についても見ていくことにする。

3.1.1 疑問要素が目的語と副詞の場合

最初に、目的語が疑問詞でありさらに疑問副詞を持っている文である。

(3 - 1) a. Mary bought what where ?

b. What did Mary buy where ?

c. Where did Mary buy what ?

(3 - 2) a. Mary bought what when ?

b. What did Mary buy when ?

c. When did Mary buy what ?

(3 - 3) a. Tom put what where ?

多重 WH 疑問文における疑問要素の前置優先性に関する一考察

- b. What did Tom put where?
- c. Where did Tom put what?
- (3 - 4) a. John conveyed what to whom?
- b. What did John convey to whom?
- c. To whom did John convey what?

ない場合は疑問副詞が疑問の目的語より優先的に前置される。

3. 1. 2 疑問要素が副詞の場合

今度は疑問副詞が2つある文を見ていこう。

上の文はすべて文法的であると判断された。しかしながら(3 - 1) - (3 - 2)と(3 - 3) - (3 - 4)に関して対称的な文法的判断が得られた。前者では、それぞれを文法的に高い方から並べると(c) > (a) > (b)となる。それに対して後者では(c) > (b) > (a)となる。通常、WH 疑問文では疑問詞を前置しなければならないのだが、(3 - 1) - (3 - 2)では目的語を前置するよりも、何も前置しない方が文法性が高いと判断されたのである。

- (3 - 9) a. ? John put his book where when?
- b. *? Where did John put his book when?
- c. When did John put his book where?
- (3 - 10) a. ? Jack took her where why?
- b. *Where did Jack take her why?
- c. Why did Jack take her where?

では、(3 - 1) - (3 - 2)と(3 - 3) - (3 - 4)との違いを考えてみよう。

- (3 - 5) a. Mary bought a bag at the new shop.
- b. Mary bought a bag.
- (3 - 6) a. Tom put his bag on the table.
- b. *Tom put his bag.

(a)は前置無し、(b)(c)は疑問詞を1つ前置したものである。いずれの例も(c)が最も文法性が高く、つづいて(a)、(b)という順になっている。(a)は文法的に曖昧で、(b)は容認され難いと判断された。では、(b)、(c)では同じように疑問副詞を1つ前置したにもかかわらず、なぜ文法性の評価に差があらわれたのであろうか。(3 - 9)ではwhere前置よりもwhen前置の方が文法的であるとされた。この2つの疑問副詞は文法的にどのような役割を担っているのだろうか。ここでも動詞putが前置に関する文法性に大きく影響しているようである。すなわち、putは目的語と場所を示す副詞句を必須要素として扱うのであり、(3 - 9)ではwhereは必須要素、一方whenは非必須要素である。(3 - 9 b,c)の文法性の差は前置要素が必須要素であるか否かによると考えられる。(3 - 9 c)では非必須要素whenを前置しており文法的と判断され、(3 - 9 b)では必須要素whereを前置しており文法性が低いと判断された。(3 - 10)でも同じことが言える。動詞takeは(3 - 10)では場所の副詞句を必要とし、whyは必要不可欠の要素ではない。why前置をした(3 - 10c)は文法的でwhereを前置した(3 - 10 b)は非文と判断された。

上の例から分かるようにbuyは場所の副詞句を必須要素とはしないが、一方、putにとっては場所の副詞句は不可欠な要素なのである。すなわち、(3 - 1)、(3 - 2)のboughtはwhenやwhereを必須要素としてとらないが、(3 - 3)、(3 - 4)のputはwhereを、conveyedはto whomをそれぞれ必須要素として取るのである。この違いが(3 - 1) - (3 - 4)の文法性判断に表れたと思われる。以上の点をまとめると次のようになる。

- (3 - 7) 目的語と副詞句が疑問要素の場合²
 - (i) 疑問副詞が非必須要素の場合の前置順位
疑問副詞 > 前置なし > 目的語
 - (ii) 疑問副詞が必須要素の場合の前置順位
疑問副詞 > 目的語 > 前置なし

以上の点から次のような仮説がたてられる。

以上のことから次のような仮説がたてられよう。

- (3 - 8) 疑問要素として非必須要素が存在するにもかかわらず、必須要素を前置した場合は文法性が低くなる。必須要素だけしか

- (3 - 11) 疑問副詞が2つあり、一方が必須要素で他方が非必須要素の場合、後者を前置しなければならない。

では2つの疑問副詞が存在し、両者とも非必須要素の場合の前置優先性はどうなるのだろうか。次の

文を見てみよう。

- (3 - 12) a. *Mike caught such a big fish where when ?
- b. ? Where did Mike catch such a big fish when ?
- c. When did Mike catch such a big fish where ?
- (3 - 13) a. *Ken hid his camera where when ?
- b. *Where did Ken hide his camera when ?
- c. When did Ken hide his camera where ?

上の例で使われている動詞 catch と hide は共に副詞句を必須要素としている動詞ではない。where や when はこの場合非必須要素である。しかしながら where 前置の場合と when 前置の場合とではここでも大きな差が生じた。考えられることは動詞の個々の意味的特徴によるのではないかということである。(3 - 12) の場合、「とても大きな魚をつかまえた。」という内容に対して「いつ」という時間の副詞よりも、「どこで」という場所の副詞のほうが取り易いのではないかということである。(3 - 13) の hide はどうであろうか。「ケンにはカメラを隠した。」という内容に対して密接に関係するのは場所の副詞であって、時の副詞ではないだろう。すなわち、上の2組の例文では where は「疑似」必須要素と考えられ where 前置をした (b) は文法的に低いとみなされている。一方、when 前置の (c) は文法的である。すなわち、次のような仮説がたてられるだろう。

- (3 - 14) 疑問副詞が2つある場合、相対的に動詞句と密接な関係にある疑問副詞は前置されにくい。

(3 - 14) は (3 - 11) となんら矛盾するものではないことは明らかである。

3. 1. 3 why の優先性について

ここでは、why の前置優先性について見ていくことにする。

- (3 - 15) a. * ? Jack took her where why ?
- b. *Where did Jack take her why ?
- c. Why did Jack take her where ?

- (3 - 16) a. *Kathy supplied food to whom why ?
- b. *To whom did Kathy supply food why ?
- c. Why did Kathy supply food to whom ?
- (3 - 17) a. *Kate had an accident where why ?
- b. ? Where did Kate have an accident why ?
- c. Why did Kate have an accident where ?
- (3 - 18) a. ? Jack quit his job when why ?
- b. ? When did Jack quit his job why ?
- c. Why did Jack quit his job when ?

(3 - 15) - (3 - 16) では why 以外の疑問詞は文の必須要素であり、(3 - 17) - (3 - 18) では疑問詞はすべて非必須要素である。上の例では (c) はすべて文法的である。つまり、why は他の疑問副詞よりは前置に関して優先順位が高いと考えられる。(b) に関しては (3 - 15) - (3 - 16) と (3 - 17) - (3 - 18) との間に明確な差が現われた。前者は非文、後者は文法的に曖昧であると判断された。前者の場合、前置したのは文の必須要素となる疑問詞で、後者の場合は非必須要素である。ここでも、必須要素である疑問要素の前置は非必須要素の場合よりも認められないようだ。一方、後者において文法性が曖昧だったのは前置順位の高い why があるにも関わらず他の疑問副詞を前置したためと考えられる。以上の点から次のような仮説がたてられる。

- (3 - 19) 疑問副詞を2つ含み、そのうち1つが why である多重疑問文の場合、why を優先的に前置しなければならない。また、必須要素は非必須要素に比べ前置されにくく、非必須要素があるにもかかわらず必須要素を前置した場合は文法性が低くなる。

3. 1. 4 how の優先性について

how 前置は天野 (1987) によるとかなり前置優先性が高いようだが、どの程度の優先性があるのかはまだ不明な点が多い。まず最初に目的語の疑問詞と how がある疑問文を見てみよう。

- (3 - 20) a. Tom was regarding whom how ?

多重 WH 疑問文における疑問要素の前置優先性に関する一考察

- b.? ◀ Whom was Tom regarding how?
 c. How was Tom regarding whom?
 (3 - 21) a. John worded what how?
 b.? What did John word how?
 c. How did John word what?
 (3 - 22) a. Mike taught what how?
 b.*? What did Mike teach how?
 c. How did Mike teach what?
 (3 - 23) a. Ken bought what how?
 b.*? What did Ken buy how?
 c. How did Ken buy what?

(3 - 20) と (3 - 21) の how は必須要素, 一方, (3 - 22) と (3 - 23) でのそれは必須要素ではない。4組の例に共通して言えることは, 最も文法的な文は (c) であり, 次に (a) が続き, (b) は最も文法性が低いと判断されている。ところで, how が必須要素であるか否かによって, (b) に文法性の違いが見られた。how が必須要素の場合の他の疑問詞前置は, how が否必須要素の場合のそれより文法性が高いのである。すなわち, (3 - 20b) と (3 - 21b) は (3 - 22b) や (3 - 23b) よりも文法性が高いのである。この点について次のように考えられる。(3 - 22b) と (3 - 23b) では前置しやすい非必須要素の how があるにもかかわらず, 他の疑問詞 what をそれぞれ前置している。そのため文法性が低くなる。これは (3 - 19) で仮定したことと矛盾していない。一方, (3 - 20b) は how, whom, (3 - 21b) では how, what が共に必須要素であるため, 目的語前置をしたところで「非必須要素優先」には反しない。よって (3 - 22b), (3 - 23b) よりも容認されやすくなっているのである。

次に how と疑問副詞や疑問前置詞句がある場合の多重疑問文について見ていこう。

- (3 - 24) a.? ◀ Tom went where how?
 b.*? Where did Tom go how?
 c. How did Tom go where?
 (3 - 25) a.? Mike communicated the news to whom how?
 b.*? To whom did Mike communicate the news how?
 c. How did Mike communicate the news to whom?
 (3 - 26) a.*? John killed Mary how when?
 b.*? When did John kill Mary how?

- c.? ◀ How did John kill Mary when?
 (3 - 27) a.*? Jack was injured how why?
 b.? Why was Jack injured how?
 c.? ◀ How was Jack injured why?

前者2例は how だけが非必須要素であり, 後者2例は疑問詞がすべて非必須要素である。さて, ここでも how の前置優先性は変わらず, (c) は最も文法性が高いと評価されている。また, 前置順位の高い how があるにもかかわらず, 前置されにくい必須要素の疑問詞を前置した場合は, 非必須要素のそれを前置した場合よりも文法性が低い。すなわち, (3 - 24b), (3 - 25b) は (3 - 26b), (3 - 27b) よりも文法性が低いのである。このことはいままでの仮説「必須要素は非必須要素より前置されにくい」ということと一致する。さらに, (3 - 27) から how と why の前置優先性は how の方が高いと考えられる。次の例でも why に対する how の前置性優位は変わらない。

- (3 - 28) a.? Why did Jack kill whom how?
 b.? ◀ How did Jack kill whom why?

以上の結果, 次のような仮説がたてられるだろう。

- (3 - 29) how は疑問要素の中で最も前置優先性が高い疑問詞である。また必須要素は非必須要素に比べ前置されにくい。

さて, いままで主語が非疑問要素の場合の多重疑問文について疑問要素の前置優先性を見てきた。そこで5つの仮説 (3 - 8), (3 - 11), (3 - 14), (3 - 19), (3 - 29) をまとめると次のようになる。

- (3 - 30) 主語が非疑問要素の場合の疑問詞前置優先性²
 how > why > 疑問副詞 (非必須要素)
 > 疑問副詞 (必須要素) > 目的語

次に主語が疑問要素の場合の疑問詞前置について見ていくことにする。

3.2 主語が疑問要素の場合

主語が疑問要素の多重 WH 疑問文では (2 - 6) の一般化にあるように主語前置の優先性が最も高いとされてきた。実際に筆者のデータでも主語の疑問

要素の前置優先性は高いものであった。しかしはたしてそれが絶対的な前置優先力を持っているのだろうか。

3.2.1 主語と目的語・副詞が疑問要素の場合

まず、目的語の疑問要素との前置優先性を見てみよう。

(3 - 31) a. Who killed whom ?

b. *Whom who killed ?

(3 - 32) a. Who read what ?

b. *What who read ?

(2 - 6) の主語と目的語の前置優先順位のとおり
の結果である。(3 - 31b) と (3 - 32b) は (3 -
31a) と (3 - 32a) の目的語をそれぞれ前置したも
のであるが、どちらも容認されないと判断された。

次に主語と副詞句疑問要素との前置優先性をみて
いこう。

(3 - 33) a. Who put my bag where ?

b. *Where who put my bag ?

(3 - 34) a. Who took his son where ?

b. *Where who took his son ?

(3 - 35) a. Who came here when ?

b. ? When who came here ?

(3 - 36) a. Who killed him why ?

b. ? Why who killed him ?

疑問副詞を前置した (b) はいずれも、who 前置の
(a) に比べて文法性が低く、主語の疑問詞前置はこ
こでも優先的であると判断できる。また、前者 2 例
は疑問副詞が必須要素であり、後者 2 例は疑問副詞
が非必須要素となっている。この違いが (b) の文
法性に影響しているようである。すなわち、必須要
素である疑問副詞を前置した (3 - 33b), (3 - 34b)
は、非必須要素である疑問副詞を前置した (3 - 35
b), (3 - 36b) よりも文法性が低くなっている。こ
の (b) の文法性の違いもやはり「必須要素は非必
須要素よりも前置しにくい」という今までの考えと
矛盾しないものである。また、(3 - 36) については
why 前置を who 前置と同じように容認可能であ
ると判断するインフォーマントも多くいる。why
前置の優位性が高いことはすでに (3 - 30) で提示
したとおりである。

次に主語、目的語、さらに副詞の 3 要素が疑問要

素となっている文についてみていくことにする。

(3 - 37) a. Who put what where ?

b. *What who put where ?

c. ? Where who put what ?

(3 - 38) a. Who took whom where ?

b. *Whom who took where ?

c. ?? Where who took whom ?

(3 - 39) a. Who met whom when ?

b. *Whom who met when ?

c. ? When who met whom ?

(3 - 40) a. Who caught what when ?

b. *What who caught when ?

c. ? When who caught what ?

前者 2 例は疑問副詞が必須要素、後者 2 例は疑問副
詞が非必須要素の構造になっている。ここでもやは
り主語前置の場合が最も容認され、目的語前置の場
合は容認されていない。また、必須要素の疑問副詞
を前置した (3 - 37c), (3 - 38c) は非必須要素の
それを前置した (3 - 39c), (3 - 40c) よりも容認
されにくいという結果が得られた。ここでも非必須
要素前置優位が成立している。

さて、次に主語と 2 つの疑問副詞が疑問要素の場
合の文について考察しなければならないのであるが、
インフォーマントに次の文を提示したところすべて
非文であると判断された。

(3 - 41) a. *Who killed him where when ?

b. *Where who killed him when ?

c. *When who killed him where ?

(3 - 42) a. *Who was absent when why ?

b. *When who was absent why ?

c. *Why who was absent when ?

理論的にはそれぞれの要素を疑問要素にすることは
可能であるのだが上記の文は非文とされた。この理
由として多重疑問文自体が特殊であり、それらの疑
問文が使われるとしたら非常に特殊なコンテクスト
を想定することが必要であり、上記の 2 組の例文の
場合、これらを容認するコンテクストがインフォ
ーマントには想定不可能だったと考えられる (cf.
Ikegami (1991 : 201-204))。

以上の結果から次のような前置優先性がえられる。

(3 - 43) 主語が疑問要素の場合の疑問詞前置優先

多重 WH 疑問文における疑問要素の前置優先性に関する一考察

性
主語 > why > 副詞 (非必須要素) >
副詞 (必須要素) > 目的語

(3 - 50) 主語が疑問要素の場合の疑問詞前置優先性
主語 > how > why > 副詞 (非必須要素) > 副詞 (必須要素) > 目的語

3. 2. 2 how 前置について

主語が非疑問要素の場合の how の前置順位は 3. 1. 4 で見てきたとおりである。では、主語が疑問要素の場合はどうであろうか。

まず、疑問詞が 2 つの場合 (主語と how) を考えてみよう。

- (3 - 44) a. Who passed the exam how ?
b. ? How who passed the exam ?
(3 - 45) a. ? Who went out of the house how ?
b. ? How who went out of the house ?
(3 - 46) a. Who worded the letter how ?
b. ? How who worded the letter ?
(3 - 47) a. Who was regarding the beautiful girl how ?
b. How who was regarding the beautiful girl ?

4 組の例文を提示したところやはり who 前置が how 前置にやや優る様ではあるが、how を実際に前置した (b) も文法性がそれほど低くはなく全くの非文であるという判断は見あたらなかった。すなわち、how は主語が疑問詞の場合であってもかなり前置性があると判断してもよさそうである。

つぎに how の他に主語と目的語が疑問詞の場合を考えてみよう。

- (3 - 48) a. Who killed whom how ?
b. *Whom who killed how ?
c. ? How who killed whom ?
(3 - 49) a. Who cooked what how ?
b. *What who cooked how ?
c. ? How who cooked what ?

主語前置、続いて how 前置の順位性は変わらない。また、目的語を前置した場合は完全な非文であると思なされた。この点に関しては次のように考えられる。非常に前置優先性の高い主語の疑問要素や how があるにもかかわらず、目的語の疑問詞を前置したがために、(b) には強い「罰則」が与えられたのだと考えてよいだろう。

以上、3. 2 をまとめると次のようになる。

4. まとめ

3. では 2 つの規則を一般化した。1 つは (3 - 30) であり、他方は (3 - 50) である。ここでそれらを (4 - 1), (4 - 2) として再記しよう。

(4 - 1) 主語が非疑問要素の場合の疑問詞前置優先性
how > why > 疑問副詞 (非必須要素) > 疑問副詞 (必須要素) > 目的語

(4 - 2) 主語が疑問要素の場合の疑問詞前置優先性
主語 > how > why > 副詞 (非必須要素) > 副詞 (必須要素) > 目的語

これら 2 つの規則は全く矛盾することなく疑問詞の前置優先性を示していることは容易に判断できる。すなわち (4 - 2) が今までの考察をまとめた規則と考えられ得る。

しかしながら (4 - 2) での前置順位に反した疑問詞前置をした場合には必ず非文になるというわけではない。

- (4 - 3) a. Where did Tom put what ?
b. What did Tom put where ?
(4 - 4) a. Who will do what with whose help ?
b. With whose help who will do what ?
(4 - 5) a. Who was regarding the beautiful girl how ?
b. How who was regarding the beautiful girl ?

既に見てきたようにいずれの場合にも容認性に差はあるもののすべて容認可能な文となっている。(4 - 3 b) では目的語 what が必須要素の疑問詞 where を抑えて前置されており、(4 - 2) の前置順位に反しているものの容認されている。(4 - 4 b), (4 - 5 b) に関しても同じことが言える。よって、(4 - 2) を「規則」というよりも「傾向」とい

た方が適切かもしれない。

さて、(4-3)-(4-5)の疑問要素の前置順位の差を(4-2)に照らし合わせてもう一度みてみよう。(4-3)の目的語 what と必須要素の疑問副詞 where の順位差は1である。(4-4)では主語と非必須要素の疑問前置詞句の順位差は3である。(4-5)では who と how の順位差は1である。一方、次の例文を見てみよう。

- (4-6) a. *Whom who killed ?
- b. *Where who put my bag ?
- c. ? Where did Tom go how ?

(4-6a)では who と目的語 whom との差は5, (4-6b)では4, (4-6c)では3となっている。つまり順位に反する差が大きければ大きいほど文法性が低くなり容認されなくなると言えるだろう。しかしその差がいくつの時が、適格文となるか不適格文となるかという明確な数字は明かではない。

さて本稿では対象を直接疑問文だけにしぼり、間接疑問文は扱わなかった。Chiba (*ibid.*)によると間接疑問文中での前置規則は直接疑問文の場合と比べて非常に緩やかであると示唆している。この点に関してはまだ明確には分かっておらず今後の研究を待たなければならない。

注

*) 拙稿を草するにあたりインフォーマントとして協力いただいた多くの方々に、またインフォーマントを紹介していただいた方々に改めて感謝の意を表す。

1) ここでは前置詞句を含めた。前置優先性を論じる上では副詞句・前置詞句という違いはあまり重要ではないようだ。重要なのは主語・目的語または

それらに類するような必須要素であるか否かであると予想される。

2) 「>」はその左側の要素が右側の要素より前置優先性が高いことを示す。

参考文献

Amano, M. *et al.* (1987) 「英語の文法」英語入門講座・第8巻, 英潮社新社.

Baker, C.L. (1970) "NOTES ON THE DESCRIPTION OF ENGLISH QUESTIONS : THE ROLE OF AN ABSTRACT QUESTION MORPHEME," *Foundations of Language* 6, 197-219.

Celce-Murcia, M. *et al.* (1983) *THE GRAMMAR BOOK*, Rowley : Newbury House.

Chiba, S. (1977) "ON SOME ASPECTS OF MULTIPLE Wh QUESTIONS", *Studies in English Linguistics* 5, 295-303.

Ikegami, Y. (1991) <英文法>を考える, 築摩書房.

Imai, *et al.* (1978) 「文 (II)」現代の英文法 第5巻, 研究社.

—— (1989) 一步すすんだ英文法, 大修館.

Isshiki, M. *et al.* (1978 (7th ed.)) *英語音声学*, 朝日出版社

Kuno, S. & F. Robinson (1972) "Multiple Wh Questions," *Linguistic Inquiry* 3, 463-487.

Quirk, R. *et al.* (1985) *A COMPREHENSIVE GRAMMAR OF THE ENGLISH LANGUAGE*, London : Longman.

Radford, A. (1988) *Transformational Grammar*, London : Cambridge University Press.